

⑩Win10 : 仮想デスクトップ

●仮想デスクトップ

Windows 10 は新たに「仮想デスクトップ」が搭載された。複数の仮想的なデスクトップを作成し、画面を丸ごと切り替えて使う仕組みだ（**図 14**）。複数のアプリを起動して作業することは多いが、その場合デスクトップが煩雑になり、作業しにくいこともある。仮想デスクトップはその解決策となる。同様の機能は昔からさまざまな OS に実装されていたが、Windows に標準で組み込まれたのは Windows 10 からだ。

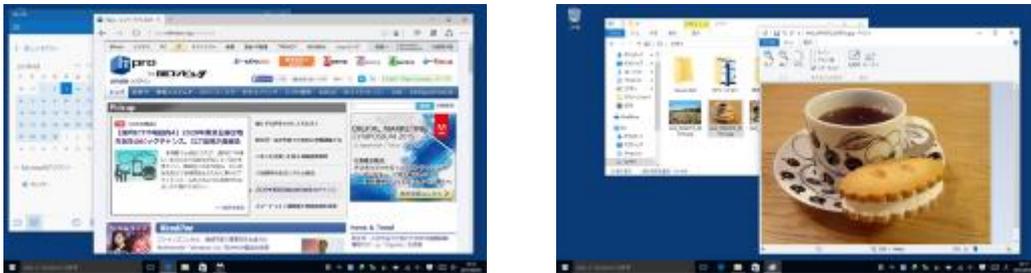


図 14 ●Windows 10 には、仮想的なデスクトップを複数用意し、切り替える機能がある。例えば、2つのデスクトップを用意して、それぞれ別の目的の作業用のアプリを表示しておいて、作業に応じて切り替えるなどができる。デスクトップがすっきり使える

仮想デスクトップは、「タスクビュー」と呼ぶアプリの切り替え画面で作成する。「新しいデスクトップ」をクリックして新規にデスクトップを作成し、それぞれにアプリを配置しよう（**図 15**、**図 16**）。

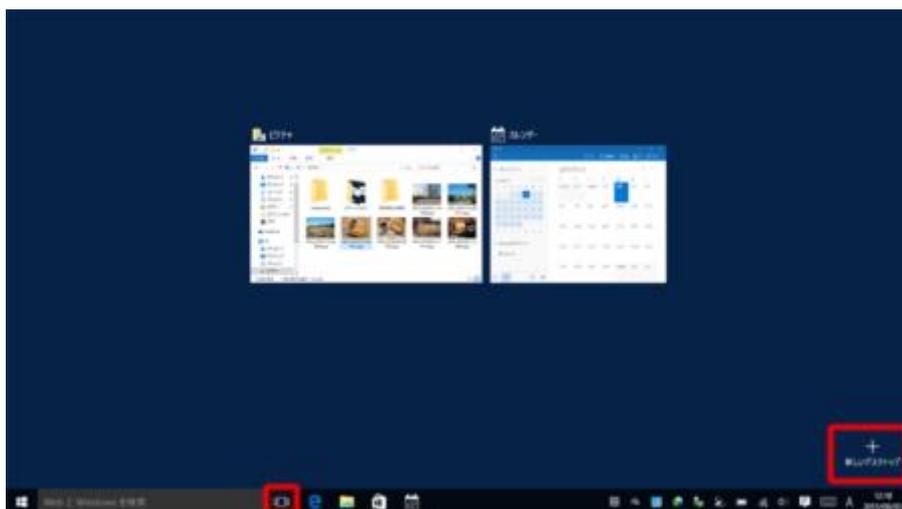


図 15 ●仮想デスクトップを使うには、タスクバーのボタンをクリックして「タスクビュー」を表示し、右下にある「新しいデスクトップ」をクリックする

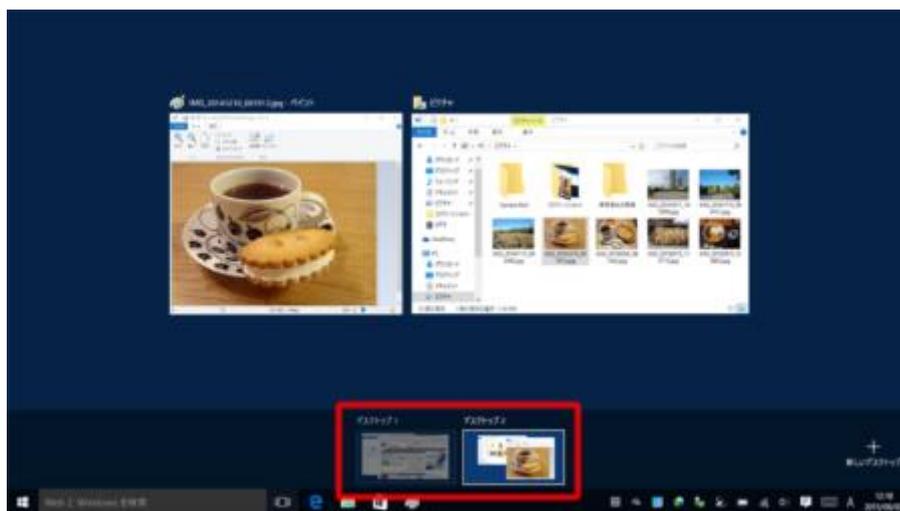


図 16●新規デスクトップが作成される。デスクトップを切り替えるには、タスクビューでデスクトップの一覧から選ぶか、[Ctrl] キーと [Windows] キーを押しながら [→] または [←] キーを押す